

21092TS

2021年10月8日

京急建設が本社移転に伴い余剰となった備蓄品を有効活用 備蓄防災食品の一部を「フードバンク」に寄付しました

京急グループの京急建設株式会社（本社：横浜市神奈川区，社長：白井 学，以下 京急建設）は，2021年10月25日（月）から京急グループ本社（所在地：横浜市西区）に本社機能を移転することに伴い，余剰となった現本社の備蓄防災食品の一部をフードバンク，「セカンドハーベスト・ジャパン」に寄付いたしました。

これは，社会課題解決に向けた京急グループのESG経営の一環として，京急建設がおこなった活動のひとつで，SDGsの「(1番) 貧困をなくそう」，「(2番) 飢餓をゼロに」，「(12番) つくる責任つかう責任」の目標達成に向けて，余剰となった備蓄防災食品白米約756食，味噌汁約540食をフードバンクへ寄贈し，食品ロス問題や廃棄物削減に貢献するものです。

京急建設では引き続き，持続可能な社会の実現を目指し，さらなる社会課題解決に取り組んでまいります。

1. 寄付防災食品について

白飯（お米）：756食（36食/箱×21箱），味噌汁：540食（60個/箱×9箱） ※白米1食=200g

2. 寄付先について

- (1) 名称：セカンドハーベスト・ジャパン
- (2) CEO：マクジルトン・チャールズ・アール
- (3) 概要：日本初のフードバンクを運営し，食品製造メーカーや生産者，企業，個人から余剰食品を引き取り，児童養護施設やDV被害シェルター，フードパントリー団体等へ安全に分配する取り組みを進めている団体



寄付した備蓄防災食品